

RUMIPES

ランプス

Certification for Inspection of Welds NEWS

Vol.40 No.2 Spring, 2026

— CIW通信 —

編集・発行／一般社団法人 日本溶接協会 溶接検査認定委員会

【創刊40周年記念特集】

特別座談会

CIW活動と広報活動の過去からの
教訓と将来に向けて

第2回「女性のためのセミナー」関西地区 開催報告

CIW認定会社のプロフィール紹介

CIW検査業協会だより

CIW認定に関するお知らせ

編集後記



創刊40周年記念特集

目次

1. 創刊 40 周年記念特集		
特別座談会 CIW 活動と広報活動の過去からの教訓と将来に向けて ……	1	
2. 第 2 回「女性のためのセミナー」関西地区 開催報告 …… 眞野 智宜	10	
(参加報告：佐藤 ゆかり、八木 香織、日浦 深愛)		
3. 創刊 40 周年記念特集		
CIW 認定会社プロフィール ……	15	
東日本検査株式会社	北陸検査株式会社	内外エンジニアリング株式会社
有限会社グローバル検査	株式会社大検	株式会社ジャスト
有限会社優検	アイ・エス・シー検査サービス株式会社	株式会社コーケン
有限会社三重非破壊検査	関門検査サービス株式会社	富士検査株式会社
四国エックス線株式会社	株式会社ジャパンエコーサービス	エース・エンジニアリング株式会社
株式会社スルガ検査	株式会社サンテクノス	ユニセック株式会社
株式会社建材サービスセンター	有限会社佐賀検査サービス	
4. IWIP 特任コースお知らせ ……	26	
5. CIW 検査業協会だより ……	28	
6. CIW 認定に関するお知らせ ……	29	
7. 編集後記 ……	30	

お知らせ

「CIW 通信—RUMPES」原稿募集

CIW 通信編集委員会では、一層の内容充実を図るため RUMPES 賞を設け、読者の皆様より原稿を募集いたします。

内容：論文、随想などジャンルは不問。ただし未発表の原稿に限る

応募様式：A4 判 1～4 頁（1,600～7,300 文字＝図表除く）

提出期限：2026 年 9 月末日

掲載された論文の中から、委員会の選考により、RUMPES 賞を贈呈いたします。奮ってご応募ください。申し込み・問い合わせは、CIW 通信編集委員会（電話 03-5823-6325）まで。

CIW 通信編集委員会

RUMPES（ランプス）とは：

非破壊検査部門の頭文字 R(RT), U(UT), M(MT), P(PT), E(ET), S(ST) を採ったものである。

創刊40周年記念特集

特別座談会

CIW 活動と広報活動の過去からの 教訓と将来に向けて



〈出席者〉(順不同)

- 岡田 広志 氏 (株式会社シーエックスアール 取締役)
沖津 博斗 氏 (株式会社スルガ検査 代表取締役)
森 雅司 氏 (非破壊検査株式会社 常務取締役)
山本 浩太 氏 (ソニック株式会社 代表取締役)
江端 誠 氏 (CIW 通信編集委員会 前委員長)
平澤 泰治 氏 (CIW 通信編集委員会 委員長)

〈司会〉

- 大岡 紀一 氏 (一般社団法人日本非破壊検査協会顧問)

大岡 皆様、お忙しいところ「ランプス創刊 40 周年記念 特別座談会」のために、お集まり頂きましてありがとうございます。本日は、各社の CIW との関わりや、CIW 通信—RUMPES（ランプス）への要望や取り上げてもらいたいテーマなど忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。それでは、まずお一人ずつ自己紹介をお願い致します。では森様からよろしく願いします。

森 非破壊検査の森です。技術本部長をしています。以前は研究所で勤務していましたが、入社後 10 数年は原子力関連の検査に従事しておりました。その後、研究開発の業務に関わって現在に至っております。本日は宜しくお願い致します。

岡田 シーエックスアールの岡田です。私は昨年 9 月まで東京で勤務しており、ランプスの編集委員も務めていました。現在は広島県に戻り、研修センターで技術開発と営業に従事しています。主に新しい情報を取り入れて仕事へのフィードバックを行っています。本日は宜しくお願い致します。

山本 ソニックの山本です。私は 2001 年に入社し、ずっと技術畑を歩んできました。主に原子力発電所やプラント関連の検査、また建築鉄骨分野での UT に従事していました。2018 年に前社長が他界し、急遽代表取締役役に就任し、現在まで 7 年間務めています。本日は宜しくお願い致します。

沖津 スルガ検査の沖津です。当社は、今年で 13 期目を迎え、静岡県沼津市に本社を有し、現在は東京営業所、関西事業所、全国の各出張所に社員が点在しています。当初は建築鉄骨溶接部の第三者受入検査を行っていましたが、現在は社員が増え、幅広い非破壊検査を行っております。私は非破壊検査という業界をもっと世の中の人に知ってもらいながら、自社をどんどん成長させることが自分の仕事であると考えています。本日はこういった貴重な機会をいただけてありがたく思います。宜しくお願い致します。

江端 私は、ランプスの初代委員長を 30 数年間務めてきました。昔のことで知っていることなどをお話できればと考えております。宜しくお願い致します。

平澤 ランプスの編集委員会には 2018 年から関わってきました。2020 年からは委員長を務めています。私は、非破壊検査においては主に原子力関連の検査技術の開発と運用、実用化に携わっていました。本日は

皆様から様々な意見を頂戴して編集内容に反映させていきたいと考えています。是非とも忌憚のないご意見をお願い致します。

大岡 それではまず、皆様の CIW との関わりや認定についてお伺いできればと思います。各社様の認定取得の時期や取り組みなどについて教えてください。山本様からお願い致します。

山本 当社は 1993 年にまず E 種を取得し、1995 年に D 種、2005 年に C 種の認定を受けました。その後、2008 年に B 種を取得し、併せて建築鉄骨検査適格事業者となりました。2021 年には MT、2023 年に ET 部門を取得し A 種の認定を取得しました。2026 年 1 月には ST 部門の審査を受け、今年の 4 月より全部門の認定を取得するに至りました。トータルでは 33 年がかかりました。

大岡 確固たる目標はあったものの、やはりそれを達成するための人的・経済的負担も大きかったのではないのでしょうか。

山本 当社の技術部門は限られた人数で構成されています。この体制で A 種の取得を達成するためには社員一人一人が資格取得や資格維持のためのモチベーションを保つことがたいへん重要になってきます。

大岡 沖津さんはいかがでしょう。

沖津 もともと私は、三島市の検査会社で 6 年間検査員として勤務していました。その後、独立して思ったことは、「鉄骨検査を行う時に必ず CIW 認定の資格は必要である」ということでした。そのため絶対に CIW 認定を取得しようという思いでここまでやってきました。2013 年に起業後、2018 年に D 種を取得しました。その後もずっと A 種を目指そうという強い思いがありました。2024 年に C 種、昨年は B 種を取得するに至りました。来年には A 種を取ることを目標にして頑張っています。

大岡 お二人とも発言に力があり、検査業界の将来を見据えて頑張っていくという熱い思いが感じられますね。岡田さんはいかがでしょう。

岡田 当社は実は 1965 年 12 月に今の CIW の前身である放射線検査委員会（RAC）において認定社第一号として当時の木原博会長から認定証を授与された歴史があります。現在は、A 種認定 5 部門と建築鉄骨検査適格事業者の認定をいただいて活動しています。

森 当社は 1980 年 10 月に初めて A 種の認定を受け



森 雅司 氏



岡田 広志 氏

ました。認定取得者はけっこういるのですが、やはり年齢の高い検査員が定年退職してしまうため、その人数を維持する点で苦勞しています。

大岡 検査員数の維持という点に関しては、CIW だけでなく、(一社)日本非破壊検査協会(JSNDI)の試験でも同じですね。かつて、すごく人が足りない時などは文系の大学を卒業した人が理系の勉強をして受験されたといった時代もありましたね。株式会社シーエックスアールも非破壊検査株式会社も検査員の人数が多いので、資格者の維持や人材育成は大変重要な部分になりますね。

続いては、ランプスに対するご意見を頂戴したいと思います。編集委員会としても皆様に有益な情報を提供したいと思いながら、様々な企画を立ててきました。これまでで、印象に残っている内容などはございますか。

沖津 当社が2018年にCIW認定を取得した際に社員が「わが社のホープ」に掲載していただきました。そこから大変興味を持って拝読させていただいています。若手検査員の方々の紹介では、業務内容や保有資格、どんな活動をしているのかなど非常に参考にさせていただきました。

岡田 当社でも社員に聞いてみると、一番の興味は研究・教育委員会による「試験対策」を熱心に読んでいますね。教育活用として、社内での技術者の資格取得のための資料として利用させていただいております。また、各種きずに対する検出技術の情報も皆で共有しています。去年は私の方でもCIW検査業協会主催による「女性の人間力&リーダーシップ入門講座」について報告させていただきました。

森 私たちも試験対策として記事を活用しています。社内教育として、それらを用いての講習なども行っています。

大岡 試験対策用に「解説」や「一口レッスン」などが掲載されていますが、技術的な資料としてはどうですか。

森 見えています。「技術紹介」など情報としてはやはり知っておきたいということで、参考にしながら読んでいます。

大岡 試験問題の対策については、各社とも関心のある共通の話題ですね。ただ、編集委員会としては、どれを掲載するのかに頭を悩ませています。例えば、難しい問題、解釈しにくい問題などありますが、基本的には、皆さんに最低限知っておいてもらいたいものなどは載せていくようにはしています。

平澤 私が委員長を引き継いで、読者である検査会社の方々が何に興味を持っているかを考えた時にやはり一番は「試験」に関することであると考えました。試験問題の対策は非常に重要です。日本溶接協会溶接検査認定委員会の研究・教育委員会が中心となって原稿を書いています。講師の先生に依頼する際には「できるだけ受験者に有益なものを書いてください」とお願いをしています。

江端 最近はいろいろな試験問題が掲載されていて、受験者にとっては良い企画であると思います。問題の解説については、かつてのCIW通信でも少しずつ掲載していました。CIWとは当初、大阪大学工学部の仙田富男先生が検査会社の育成や地位向上などを目的として始めたことが、はじまりでした。そういった意味では検査会社の教育という観点から試験問題の解説



山本 浩太 氏



沖津 博斗 氏

を通じて教育していこうという思想がベースにありました。

大岡 試験問題に関しては何かご意見やお気づきの点はありますか

森 更新審査で報告書を提出するのですが、そのレポートの内容がどういった意義や目的のもとで行われているのかを理解しないで書いてしまうと当然、再提出になってしまいます。その点の解説を丁寧にいただいているので、非常にありがたいと感じます。

大岡 本来のCIW認定資格とは、JSNDIの資格がベースとなっています。試験に関してはその上での出題なので応用をきかせる、若しくはある程度基礎的な問題から発展した内容にするというのが本筋であると考えています。やはり基礎的なことができないといけなと思います。このような話題を載せて欲しいという希望はありますか。

江端 CIW認定というのはJSNDIの資格とやや異なり鋼構造物における溶接部の非破壊検査をメインに取り扱っています。そのため例えば、溶接部に余盛があることによって非破壊試験にどういった影響があるかなどは、CIWにとっても大変重要な内容です。こうした溶接部に関わるところを理解していただきたいという思いがあり、そういう問題を中心に解説を掲載しています。

大岡 JSNDIの1980年代のテキストをみるとほとんどが溶接構造物を取り扱っていました。規格に関しては当時、海外のものを翻訳した内容を中心に掲載しており、当初は欧米の技術を知ってもらい、現場で適用してもらおうというスタンスであったと考えます。現在でも材料の違いこそあれ、構造物の接合においては溶

接が中心となっています。このため溶接を知ることは非破壊検査技術者においても必要不可欠であると言えます。

また、更新試験もCIWとして力を入れている部分ではありますが、レポートに関しても書き方にはテーマについての注文がついています。学習方法についてはいかがですか。皆さんグループで勉強されているのでしょうか。それとも個人での学習が多いのでしょうか。
沖津 今の時代ならではの、なのかもしれませんが、若い社員などはChatGPTで聞いてしまうケースが多いです。これに関しては、どういった検査ができるのか、こうした研究は進められているのかななどを明確に回答してくれるため、非常に便利です。

森 今の時代は、大学教育においても生成AIでレポートを作成している学生もいるようで、教授はレポートが生成AIで作成したものを判断するために生成AIを使っているといった例もみられるようです。

大岡 更新審査における継続的専門能力の開発実績や実務実績報告書の作成方法についてはランプスでも解説していますね。

平澤 2013年に研究・教育委員会が中心となってまとめたものを掲載しています。やはり皆さん実務実績と技術開発の2本を書くことが相当大変だということでした。採点の時は適正かつ公正に採点するために二重、三重にもチェックを重ねて行っています。更新審査の講習会でも適切な書き方などを説明しています。受験者の合格率のアップを願ってランプスでも何度か取り上げて掲載しています。

大岡 更新レポートについては、本人が書いたあとに上司が見ていますよね。試験対策の問題とか技術など



江端 誠氏



平澤 泰治氏

は目を通されていることは非常にありがたいです。皆様にとっては、注目の記事が良いのでしょうか。

試験問題対策以外には何か掲載してほしい注目記事はありますか。

平澤 ランプスの過去の記事には、非破壊検査に関する技術紹介、現場の窓、規格改正の要点、規格の国際整合化、倫理などに関する紹介記事がありました。検査会社の皆さんにとってこれらの記事を執筆することは大変と思いますが、委員会としては、ランプスを検査会社のアピールの場として大いに活用していただきたいと考えています。自社の取り組みや事業内容、外観検査で画期的な技術を開発した、など何でも結構です。是非とも紙面で紹介させていただきたいと思っています。

大岡 幅広くこういったことを取り扱っていることは非常に良いと思います。江端さんはランプスのバックナンバーを見て何か感じることはありますか。

江端 試験対策だけでなく、倫理を中心にしたものなど、その時代ごとに様々な話題を提供しています。CIWにおいて我々編集委員と検査会社との関係はいわば、車の両輪であると考えています。CIWの活動を紹介することはもちろん、会員である検査会社のアピール雑誌としても使ってもらいたいと思います。

大岡 企業紹介やお国自慢などについて積極的に提案頂きたいのですが、その点については編集委員も務めた岡田さんから検査会社の皆さんに周知していただいておりますね。

岡田 はい。全体的に言えることは、会員企業各社はみな、他社の事業や取り組みに大いに関心を持っています。特に自社の課題と重なる内容が掲載されていた

時などはなおさらです。逆に課題を解決するような技術がある場合には、発信したいと考えていますので、アピールというか、何か提案をするひとつの手段ではあると思います。会社によっては、自分で執筆することが難しいと言われることがありますが、誰にでも書きやすく、制限があまりない自由な仕組みでできればいいのですが。

森 人材育成ではこんな教育をやっていますよ、という内容などは非常に参考になりますよね。

江端 本日、出席のスルガ検査さんやソニックさんは最近いろいろな分野でご活躍されていますね。その原動力やどんな方法で事業に取り組んでいるのかなど皆、関心があると思います。そうしたことを伝えることもランプスの目的のひとつでもあると思います。

平澤 今の話に関して言えば、ソニックさんにしてもA種まで取得して、その間のご苦労やエピソードなどを聞くことができれば非常に面白いと思います。以前に、東京理学検査さんが座談会に出席していただいた際にコンプライアンスについての社内教育をしているというお話を聞きました。その後、更新講習でお話をさせていただきました。

皆さん話題は多くあるのですが、忙しくて書けないとか様々な理由があるようです。ソニックさんの検査員の方に対して、どのように社員教育をしているかが気になります。また、スルガ検査さんにはB種まで取得したが、A種の取得のためには今後どうしたらいいのか、などを紙面で伝えていただければと思います。他の検査会社にとっても大きな士気高揚にもつながるのではないのでしょうか。

江端 過去には文章を書くことが苦手だという方もい



大岡 紀一 氏

ましたが、インタビュー方式で書いて掲載する方法も可能です。とにかく自社そして非破壊検査業界全体のために是非とも発信していただきたいと思います。

平澤 CIW 検査業協会の広報委員会を通して広く周知していただけるとありがたいのですが。

岡田 一度アンケートを取ったことがありました。積極的な検査会社とそうでない検査会社がありました。まだ道なかばといった部分があります。インタビューのほうが受けてくれそうな感じはします。

大岡 やり方はいろいろあるかと思いますが。検査会社の方々にアイデアを掘り起こしていただくことも必要ではないかと思っています。本日、このような話し合いができたことは、意義深いことと思います。もう一度、ランプスをブラッシュアップする意味でも CIW 検査業協会にも協力をお願いしたいと思っています。

それでは話題を変えて、技術開発に関してお伺いしたいと思います。スルガ検査さんはいかがでしょう。

沖津 当社にはソリューション事業部がありまして、非破壊検査を自動化するという取り組みを進めています。いくつかお客様が決まっていますが、そのほとんどが製造業やメーカーとなっております。フェーズドアレイ UT や RT、外観検査等々を適用するのですが、建築構造物については、今の段階では自動化するのは難しいと考えております。

大岡 山本さんはいかがでしょう。

山本 技術的な意味での開発ではないのですが、今までの非破壊検査の技術者は残業が多く、現場検査が終わっても夜遅くまで書類をまとめるというイメージがありました。それを改善するための取り組みは進めています。どうすれば残業を減らせるのか、技術者が現

場に集中できるのかなどを社内で検討してきた結果、やはり検査現場への DX(デジタルトランスフォーメーション) の導入しかないという結論に至りました。

検査員 1 人あたり 1 台の社内 PC とノート PC、タブレット端末を支給し、社内 SNS とクラウドサーバー、社内アプリを自社独自に構築して、社員がどこでも仕事ができる環境を構築し、負担をなくすような効率化を図っています。無駄のない社内体制を構築することで社員のモチベーションも向上し、資格取得の意欲にもつながっていくのではないのでしょうか。なるべく良い循環になるように会社の組織を変えていく取り組みを実行しています。非破壊検査の現場作業だけでなく、見積書から報告書の提出まで無駄のない、負担の少ない職場づくりに努めている次第です。

それと関心のあるテーマについてですが、先日、ある会合で UT 規格の技術的な歴史や規格の成り立ちについての講習を聞きましたが、大変勉強になりました。これは他社の経営者の方々も自社の若い人たちに聞かせたいといった意見が多かったです。

大岡 非破壊検査の歴史的な背景を掲載していくのもいいですね。歴史の話についてはこれまで座談会でもあまり話題にはなっていませんでした。本日まで参加の方々にも CIW 認定取得の経緯やご苦労などをお聞きしましたが、もっと聞いてみたいと思いました。読者にとっても今後、自社をよりいっそう良くしていくための起爆剤となれば非常に良い企画ではないでしょうか。

また、規格の話についても今年の 1 月 6 日に開かれた溶接界賀詞交歓会において、経済産業省の方が規格や標準化の重要性についてお話をされていました。特

に、標準化については、産業の国際競争力を強化していく上でもますます重要な役割を担っていくでしょう。CIW 規格に関連して何か CIW を活用するなどのお話は聞いていますか。

森 やはり公共工事の標準仕様書などに入れて明文化してもらうことが重要ではないでしょうか。そういった活動をしていかなければいけないと思います。国などに働きかけはしているとは思いますが、なかなか難しいというところが実情です。

大岡 ずいぶん前になりますが、国土交通省などに向いて聞いて頂いたことがありました。しかしながら、担当者に資料を渡してよく読んでいただくことが大切だと思いますが、そのような経験は、スルガ検査さんはおありですか。

沖津 以前、行政の担当者にアポイントをとって、CIW の重要性や非破壊検査の仕事などを説明に行きましたが、内容を聞いて頂くまでに至りませんでした。なかなか難しいと感じました。

江端 CIW は品質マネジメントシステムを重要視して、会社の組織として信頼性のあるデータを取得することができる体制を整えていることがポイントです。このような内容を説明することが重要だと思います。

沖津 以前、ランプスに「企業倫理」の話が掲載されていました。それを見たときに、不正を行うかどうかは「個人」に依存していると思います。そのため、会社として一人一人の人間をきちんと教育するしかないなどということを痛感し、そのための取り組みを行っています。

当社は会社の心得を大事にしている、毎朝全社員が唱和しています。18 項目（目を見て挨拶をする、不正検査をしない、ありがとうという言葉伝える等々）設定しています。毎朝やるなかで、不正の話では他社の話も出ます、自分が成長した時の話などもです。なぜそれをやるのかというと、僕は会社の理念は何なのかということにたどり着きます。会社の理念に対して、「スルガ検査がやりたいことはこうです」と社員に伝えます。だから今、何のために「心得」をやらなければいけないかと説明しています。「あなたが変われば周りも変わる！」などを。

なぜ非破壊検査が大事なのか？それは目の前の人の命を守ることができるからです。だからこそまずは、社員教育をやらなければならないということを強く感

じています。当社は、「私たちの変化で、全国の模範となるチームに！」というビジョンがあり、まずは自分自身が正しい人間へと変わり、その集合体が全国の模範になると伝えております。チームとして行う中、誰かが不正を行えば、チームとして皆が悔しい思いをする。

こうした取り組みをホームページやソーシャルネットワークなどを通じて発信することでリクルート活動にも良い影響がありました。「やっぱり CIW はすごいなあ」と言ってもらえるためにも不正検査の撲滅については、業界全体として強化していくことが重要ではないでしょうか。

大岡 素晴らしいですね。そうした取り組みは社内だけでなく、全国の非破壊検査会社に知ってもらうために是非ランプスでも紹介できればと思います。

江端 スルガ検査さん、すごいことをやっておりますね。

沖津 現場での DX 化は今後、必要不可欠ですよ。

大岡 DX と AI の話は非破壊検査業界でも取り上げなければいけないと考えています。一方で、非破壊試験・検査という狭い分野でどれだけ AI に活用できるためのデータを収集できるかは未知数ですね。

森 すべてが活用できるデータというわけにはいきませんが、AI を用いて評価をするという取り組みはしています。医療分野でも使われていますが、一番怖いのは見逃しです。最終評価は、有資格者が行えばいいと思いますが、自動運転と同じように誰が責任を取るのかという課題もあります。

沖津 結局は非破壊検査というのは、人間がやらないと絶対だめだと思いますね。AI で最初に検査を行ってダメだった時はやはり、技術力を持った人間がやらなければなりません。

ただ、先日ある検査会社の社長と話をした際に、ここ最近3年間で約50人も退職しているという話を聞きました。そのうち30人が定年退職で、残りは資格を持った若い社員だったと…。

この若い人たちが他の検査会社に転職するかといえばそうではなく、全く異業種の方に進んでしまうというのです。産業界全体で働く人たちがどんどん減っていくなかで、どうやって人員を確保するかがやはり課題だと思います。だから今は、とにかく人を増やしていかなければいけない時期ではあります。そのために

も魅力ある非破壊検査業界にしていかなければいけないと常に考えています。

山本 今、沖津さんが話された退職した人たちについて言えば、非破壊検査という職種特有の問題もあると思います。検査員は当然ですが、資格を持っていないければ実務を担うことはできません。これは逆に言えば非破壊検査の仕事（職業）そのものが失効（＝失業）するリスク（可能性）がある職種になっているということです。10年後に資格を更新できないで資格をはく奪されて実務ができない可能性もあります。当社でも勤続20年のベテラン社員が更新試験に落ちたといったケースが見られました。若い人は、果たしてそういったリスクを冒してまで非破壊検査という仕事（職業）を選択するかと言えば、これは選ばないと思います。こういった懸念は業界全体が感じていると思います。

大岡 JSNDIにも大いに関係があるのでしょうか（笑）。

森 CIW 検査技術管理者と上級検査技術者資格登録の更新審査が講習の受講と更新レポート試験に変わったのは、非常に画期的だと思いました。

大岡 それに関しては、かなり議論を重ねました。資格制度は通常、試験などで必要な能力を評価しますが、結局、一次試験で求められる技術レベルが今も維持されているかの確認でもあります。やはり規格の国際化を進めていく以上、試験制度は外すことはできません。ただ、これは各国とも頭を悩ませています。国によっては再認証期間を10年ではなく、短く考えている国もあるようです。

話は変わりますが、今はデジタルRTも進んできていますが、なかなか実装に至っていませんね。

森 やらないとだめですよ。フィルムなんていづれはなくなりますからね。ただし現時点ではかなり範囲が狭い市場しかできないのではないかと思います。

大岡 今後、DDA（デジタルディテクターアレイ）もかなり話題性がありますね。超音波探傷試験では、フェーズドアレイ UT や TOFD-UT のようにデジタル技術を使用しています。非破壊検査さんはどのようにお考えですか。

森 デジタルRTの適用は腐食調査などの自主検査に使用しています。溶接の検査は現状フィルムを使っていますが、価格も高くなっており、いづれはデジタル

RTに移行しなければならないと考えています。

大岡 デジタルRTは、何千枚と撮影できます。使い方にもよりますが、変なきずが入らなければ使えます。スルガ検査さんのところもデジタルRTはやっていいますか。

沖津 はい。ただ当社では、デジタルRTは基本的にはコンクリートの検査だけに適用しています。また、少し特殊なものを検査する時にもデジタルRTを使用しています。

大岡 ソニックさんのところはRTはやっていいますか。

山本 RTもやっていいますが、当社はフィルムを使用しています。

大岡 いずれデジタルRTになりますね。フィルムの価格は高くなるし、暗室に入って作業をするのは大変です。

森 デジタルRTを、溶接の検査としてどこかで使いたいとは考えていますが、なかなか使える条件がまだ決められません。

大岡 私もデジタルRTに関する情報をCIWに提供してあげなければと思っています。ISO規格に対応するJISも改正しなければなりません。

ところで、皆さんから意見が出されましたが、CIWの会員にとってメリットであることであれば、ランプスを通じて提供してもらいたいと思います。ISO 9001では顧客満足度を測るためにインタビューをするとか、アンケート調査を行うなどはありますが、それと同じようにランプスを使ってもらえば幅が広がると思います。

それでは、ランプスの将来に向けて継続して欲しいテーマや企画はありますか。ページ数も固定になっていますが、特集によってはフレキシブルにしてみてもどうでしょうか。そういったことの意味も含めて忌憚のない意見をいただければと思います。

森 先ほども話に出ましたが、企業倫理やコンプライアンスは取り上げていただきたいと思います。人材確保や離職率を下げるための施策について、溶接や非破壊検査に関して業界の内外に幅広く、知名度アップを図っていかねばいけないと考えています。発信方法についてもデジタル化が進む中であって紙媒体でいくのか、電子媒体でいくのかも議論の余地があると思います。

平澤 現在、日本溶接協会のホームページ上には「規

格・発行物」のページに機関誌「RUMPES (ランプス)」としてバックナンバーも含めて PDF ファイルが掲載されています。

検査会社の皆さんは、社内で活用する際は紙媒体と電子媒体ではどちらがいいですか。

山本 当社は、10 年前までは紙ベースで届いたら、冊子を社内回覧して各自閲覧していました。現在は、社内 SNS のクラウドヘデータをアップロードして PC やタブレット端末で、いつでも社員が閲覧できるようになっています。

大岡 結局そういった方法をやっているのですね。こちら側がそれを発信するかどうかだけの話ですね。

平澤 今は電子媒体のお知らせだけで、例えば、「掲載されました」「見てください」でもいいですかね。ダウンロードもできますし、スルガ検査さんはどうですか。

沖津 弊社も同じで、社員に支給しているタブレット端末から図面やデータなどを見る体制をとっています。

岡田 当社も電子媒体での確認が中心ですが、紙ベースなどは保存用にファイルをしています。

大岡 非破壊検査さんは人が多いですが、電子媒体の方がいいですか。

森 現状は紙ベースで届いたら、社内配布しています。

江端 各検査会社は特に官公庁や行政機関との取引では、すべて電子媒体というようにはいかないですよ。

平澤 そうですね。すべていきなり電子媒体ベースへの転換というわけではなく、段階的に進めていけばと考えています。現状、各社がどういった活用や回覧方法をしているのかを知ることが我々編集委員会の次のステップにもつながっていくと思います。

森 ホームページにダウンロードできるページがあるのであればそれでもいいですね。

平澤 ホームページで CIW のページは、階層が深くなっていました。ホームページにはいって資格・認定、非破壊検査事業者等の認定 (CIW)、企画・発行物、ランプスまでいく必要があり、ワンプッシュで行えればいいですね。

大岡 保管したりする際に 1 部でも綴じておくと、

パッと見る時には便利で、紙媒体を完全にゼロにするというわけにはいかないようです。

このほか、内容や紙面構成については何かご意見はありますか。

平澤 ランプスは年 4 回発行で、ページ数は毎号 20 ページ前後で編集していますが、今年は創刊 40 周年ということで各社のプロフィールや技術紹介などを中心に紙面を充実させています。

沖津 ランプスを幅広い世代に読んでもらいたいのであれば、たとえば著名人との対談なども一案だと思います。知り合いのベンチャー企業の社長が自社をブランディングするために著名人と自分の対談をしていました。お金はかかるけど、結構いろいろな人が読んでくれているようです。

また、これから 10 年後、20 年後の非破壊検査の業界はどうなっていくのかなどについての検査会社トップ同士の会談なども非常に気になります。

大岡 『検査機器ニュース』でも新年号でトップに聞くという記事がありますが、自社のステータスという立場で話をしています。それをもう少しフォーカスして、個人と個人の対談のようなかたちで持っていくこともありかもしれませんね。

江端 今から約 40 年前ですが、『検査機器ニュース』で仙田先生が司会をして、検査会社のトップの方々による座談会が行われました。これは今でも非常に鮮明に覚えています。

大岡 トップの方々による対談の場合は、人生経験が豊富でしかも非破壊検査を理解している人でなければいけないので、人選が難しいですね。

いずれにしても本日、議論したような内容は今後のテーマとして取り上げて、会員企業にとって役立つような内容や紙面づくりに生かしていければと思います。

それでは、この辺でお開きにさせていただきます。

本日は、建設的なご意見ありがとうございました。今後もいろいろなことについて相互に情報を共有しつつ、業界発展のために進めていければと考えております。長時間にわたる座談会へのご出席、誠にありがとうございました。

2. 第2回「女性のためのセミナー」関西地区 開催報告 ～「自分らしさ」を軸に、不確実な未来を 切り拓くキャリアデザインを学ぶ～

一般社団法人 CIW 検査業協会 企画広報理事 眞野 智宜

一般社団法人 CIW 検査業協会は、魅力ある協会づくりの一環として2025年11月13日、関西地区において第2回「女性のためのセミナー」を開催いたしました。本企画は、2024年10月の関東地区開催に続くもので、非破壊検査業界で働く女性が仕事におけるジェンダーの課題を乗り越えるための人間力や、自分らしさとリーダーシップを発揮するヒントを学ぶ場として提供されました。

キャリアを「人生そのもの」と捉え直す

講師には株式会社サードラインの圓谷礼子先生を迎え、「キャリアデザインセミナー」を実施しました。本セミナーでは、キャリアを単なる職歴（キャリアプラン）ではなく、「人生全般における役割や経験の積み重ね」と再定義することから始まりました。仕事だけでなく、家族、学び、趣味など人生のあらゆる側面を「キャリア」に含め、主体的かつ計画的に未来を設計する手法が提示されました。

現代では、働く世代の約80%がキャリアに不安を感じ、約7割が明確なビジョンを持っていないという現状があります。本セミナーのゴールは、具体的なフレームワークを通じて、こうした漠然とした不安を目標達成への期待感へと転換させることに置かれました。

自己分析と「ありたい姿」の言語化

セミナーでは、自身の価値観を可視化するために「ライフラインチャート」を用いたワークが行われました。過去の幸福度の変化をグラフ化することで、自分がどのような状況で力を発揮できるのか、その客観的なパターンを抽出しました。

また、キャリアの軸を考える際、「何をしたいか（What）」という職務内容に固執するのではなく、「どうありたいか（How）」という本質的な価値観を言語

化することの重要性が強調されました。たとえば「人に頼られる存在でありたい」といった軸があれば、環境の変化に左右されず、どのような職務においても自身の価値観に基づいた行動が可能になります。

主体性を引き出す計画的デザイン

キャリアを実現するための原動力として挙げられたのが「主体性」です。これは、正解がない状況下でも自ら考え、リスクを承知で行動することを指します。この主体性を支えるツールとして、「サードラインキャリアデザインシート：1年後、5年後のビジョンと行動計画を体系的に整理するツール」と「SMARTの法則：目標を「具体的（Specific）」「測定可能（Measurable）」など5つの要素に落とし込み、現実的な計画へと昇華させるフレームワーク」が紹介されました。

パフォーマンスを最大化する視点

さらに、心理的側面からストレスマネジメントについても触れられました。パフォーマンスが高まるストレスレベルには個人差があることを理解することは、個人の成長だけでなく、組織におけるマネジメント（部下への声のかけ方など）にも応用できる、極めて実践的な知見となりました。

おわりに

本セミナーの参加者は女性限定となっておりますが、事務局として私自身もオブザーバー参加させていただき本報告をまとめました。講習後には前回に続き昼食懇談会を開催し、美味しい食事とともに有意義な意見交換が行われました。

セミナーで共有された「主体性」や「計画的デザイン」という考え方は、個人の成長のみならず、周囲への働きかけや組織の活性化にも繋がる重要な財

産となります。一般社団法人 CIW 検査業協会では、今後も働く女性たちが「自分らしさ」という軸を持ち、自らの手で豊かなキャリアを切り拓いていけるよう、こうした学びと交流の場を継続して提供してまいります。

最後になりますが、今回参加者を代表して3名の

方から、ワークを通じて得た気づきや感想を寄稿いただきました。多忙な業務の間を縫って参加し、さらには本報告のために貴重な振り返りや気づきを寄稿してくださった3名の皆様に、心より感謝申し上げます。



「キャリアデザインセミナー」参加報告

2025年11月13日（木）大阪市北区梅田ハービスENTにてCIW検査業協会主催のキャリアアップセミナーを受講させていただきました。3時間程のセミナーでしたが内容がやはり女性セミナーということで、子育てや介護に興味の習い事など話題は豊富に飛び交い、席替えもあり、ワークもあつという間の3時間でした。

実際キャリアデザインとはなんぞや？といった気持ちから始まりましたが、自分自身が生きてきた人生そのものがキャリアだということからの深堀からはじまり、家庭環境もそれぞれ違って当たり前、そういったお題の中から「自主的」「自発的」「主体的」のような3つの軸をさらに深堀していくことで、次にありたい姿がみえてくる。未来に計画的なデザインができてくる。

ありたい姿をイメージして何を手に入れたらどんな気持ちになるか、本当にありたい姿は何か、のように徹底的に細かく書き出し言葉にするなど、当た

有限会社グローバル検査 佐藤 ゆかり

り前のようにやれていないことに向き合うことがこんなにもわかりやすく自分自身を知るイコールデザインするということにつながるんだと実感した凝縮した時間でした。

セミナー後は会場のすぐ隣で素敵すぎるフレンチランチをいただきながら、セミナーでもかなり盛り上がった適正ストレスチェックの話題でさらに大盛り上がり。セミナー後の女性ならではの一体感も生まれ、趣味の話でも同業者ならではの女性の悩みや今後の願望なども含めまして、とても充実したセミナーでした。

またこのようなセミナーを全国で開催頂けると、非破壊検査業界全体が明るいイメージに変わっていくのではないかと、夢と希望に満ち溢れることができた素晴らしい時間を共有させていただくことができました。

次のセミナー開催を心待ちにしております。

「女性のためのセミナー」感想

株式会社鋼構造出版 八木 香織

昨年11月13日、大阪市北区のハービス ENT で開催された、女性限定セミナーに参加させていただきました。非破壊検査業界で働く女性の皆さんと、和気あいあいと語り合い、触発を受けながら、自らのキャリアデザインを考える貴重な機会となりました。

今回のセミナーについて、参加者として素晴らしいと感じた点は主に3つです。

1つ目は、「自らのキャリアデザインを真剣に学ぶ時間を得られたこと」。キャリアデザインは、単なる人生の目標ではなく、「将来、どんな自分になりたいのか」という、自らのあるべき姿を真剣に考え、その実現に向けたロードマップを作成するもの。結婚、子育て、親の介護などによって生活環境が変わり、時にままならない状況に追い込まれることもある女性が、それでも主体的に生きるために「キャリアデザイン」を考えることが大切だと痛感しました。また、自分のキャリアデザインを考える中で、自分が何を大切にしているのかを知ることができ、将来への漠然とした不安もかなり和らぎました。これは私のような中高年女性にとって、とてもありがたいことでした。

2つ目は、「非破壊検査業界で働く女性同士が、仕事の悩みや業界の課題を共有できたこと」。セミナーは一方的な講義スタイルではなく、少人数でワーク

ショップを重ねていく形式。講師のサードライン社長・圓谷礼子さんも、参加者が主体的に考え、発言することを大切にしようと言われていて、参加した私たちはとにかくたくさん話し、笑い、また将来の親の介護への不安など、同じ悩みに共感するひとときを過ごしました。

仕事の悩み、生活の悩みなどを働く女性が共有し、励まし合う横のつながりができたことは、非常に大切なことでした。

3つ目は「課題を共有したことで、問題に主体的に向き合う参加者の姿が見られたこと」。非破壊検査業界で働く女性が増えたことで、出張先で女子トイレをどう確保するかなど、現場でも新たな課題が出てきています。また一方で、資格取得支援や若手人材の育成など、多くの会社の共通する課題を共有することで、「新人社員向けの教育マニュアルを作っては」など、前向きな提案が出てきました。業界の課題に、女性が主体的に向き合うことで、これまでにない新たな解決のアプローチが生まれてくるのではないかと、ワクワクしました。

今回のセミナーで学んだことを自分の人生に活かすとともに、非破壊検査業界における女性の活躍を応援する一員として、日々の業務を頑張りたいと思います。ありがとうございました！

「女性のためのセミナー」からキャリアを考える： セミナー参加報告

株式会社サンテクノス 日浦 深愛

今回のセミナーには、近年女性技術者が増加している背景もあり、上司からの勧めをきっかけに参加する運びとなった。参加させていただき、業界として女性のキャリアアップを支援する姿勢を感じるとともに私自身キャリアについて深く考える有意義な経験となった。

セミナーでは、株式会社サードラインの圓谷先生よりキャリアデザインセミナーをご講義いただいた。初めにライフチャートを使用し、過去のキャリアを洗い出すことで「幸福感」の高低が見える化され、自分の価値観や物事の捉え方を確認した。次に、未来のキャリアデザインを主体的に描くことを目的とし、これまでの自分の振り返りから、なりたくない自分の姿とありたい姿をイメージした。ありたい姿を言語化し、そのために必要なことを考えることで「ありたい姿」に向かって行動できるということをご教示いただき、その後キャリアデザインを主体的に描く実践を行った。講義では、他の参加者の方たちとライフチャートを見せ合い、自身のありたい姿など意見を共有する場面もいくつか設けられていた。

キャリアデザインセミナーを受講する前までは、自分自身のキャリアについて深く考えたことはなく漠然としていたが自分の過去を振り返り言語化することで、自分の幸福度の高低を感じる原因やありたい姿について把握することが出来た。特に女性技術者のキャリアアップの点においては、同じ分野で活躍する先輩の姿を間近で見ることが少ないので目標の明確化や自身のキャリア形成について考えづら

かった。今回のセミナーの参加者には、女性管理職の方や仕事と育児の両立をこなしている方など様々な経験を持っておられる方たちが参加されていた。このようなセミナーに参加することで、各社の意見を共有するばかりではなく、ロールモデルとなるような方たちと出会える貴重な機会であった。同じ分野で活躍する先輩の姿を見ることでキャリアの道しるべとなり、私自身もいろいろなことに挑戦してみようと思える刺激を受けた。懇親会では、同業種の女性とゆっくり話をする機会は普段ないので、今回の懇親会を通して様々な会社の方とお話することが出来た。仕事に関しての話から趣味や女性同士だからこそ共有できる話など、幅広くお話を聞くことが出来て有意義な交流の場となった。また、セミナーを通じて定期的に自分のキャリアを見つめなおし、目標を立てて行動できるよう意識していきたいと改めて感じた。

女性技術者のロールモデル不足や出産・育児・介護と仕事の両立の難しさ、昇進や評価など働く際に直面する課題がある。これらの問題を個人間ですべて解決するのは難しい点があるため、会社や業界全体として女性のキャリアについて考える実りの多い時間であった。今回のセミナーを通して、今後業界全体として技術者のコミュニティが広がっていくことを願うとともに、私自身将来ロールモデルとなれるよう、今回学んだキャリアデザインを意識して行動していきたい。



創刊40周年記念特集

～CIW認定会社プロフィール～

本誌「RUMPES」は、皆様の暖かいご支援を受け、今年で創刊40周年を迎えました。ここでは、前号（Vol.40 No.1）に引き続き、CIW認定会社を紹介する特別企画「CIW認定会社プロフィール」を掲載いたします。

本誌は、関係官公庁、団体等に配布されていますので、今回の特別企画によって、CIW認定会社の業務内容などについて、さらに認識を深めて頂けることを期待しております。

一般社団法人 日本溶接協会 溶接検査認定委員会 通信編集委員会 委員長
平澤 泰治

東日本検査株式会社
有限会社グローバル検査
有限会社優検
有限会社三重非破壊検査
四国エックス線株式会社
株式会社スルガ検査
株式会社建材サービスセンター
北陸検査株式会社
株式会社大検
アイ・エス・シー検査サービス株式会社
関門検査サービス株式会社
株式会社ジャパンエコーサービス
株式会社サンテクノス
有限会社佐賀検査サービス
内外エンジニアリング株式会社
株式会社ジャスト
株式会社コーケン
富士検査株式会社
エース・エンジニアリング株式会社
ユニセック株式会社

(到着順に掲載)

第 68C-17 号

東日本検査株式会社

東日本検査株式会社は、1982年の創業以来、「優れた技術と信頼のある品質保証」を合言葉に、建築分野に特化した非破壊検査業務を通じて、社会基盤の安全性向上に取り組んでまいりました。建築鉄骨溶接部および鉄筋継手部を対象とした超音波探傷検査（UT）を主軸に、目視では確認できない内部欠陥を的確に検出し、建築構造物の品質確保に貢献しております。

また、CIW 認定検査事業者としての責任を自覚し、技術者一人ひとりが資格の新規取得および更新に継続的に取り組むことで、技術力の向上と品質マネジメント体制の強化を図っております。

今後も東北を拠点とする非破壊検査会社として、関係各社との信頼関係を大切にしながら、安心・安全な建築物づくりと地域社会の発展に、より一

層貢献してまいります。

【会社認定】

- 一般社団法人 日本溶接協会 CIW—C 種
認定検査事業者
- 公益社団法人
日本鉄筋接手協会
優良鉄筋接手部検査会社



本社所在地：〒 983-0012 宮城県仙台市宮城野区出花一丁目 4 番地 13
TEL：022-259-7551
URL：https://www.higashinohonkensa.com/
E-mail：info@hnk.co.jp
事業所：本社
認定種別：C 種
認定検査部門：UT、PT
主な検査分野：建築鉄骨溶接部および鉄筋継手部を中心とした建築物の非破壊検査

第 188C-26 号

有限会社グローバル検査

弊社は昭和 63 年（1988 年）に創業し、おかげさまで 38 年目を迎えました。今日まで弊社を支えてくださったお客様・関係団体の皆様に深く御礼申し上げます。

創業以来の社は“確かな技術で社会に貢献”を念頭に、建築・土木構造物をはじめプラント設備や航空部品等あらゆる工業分野において、非破壊検査技術を駆使してお客様のニーズにお応えしてまいりました。そして、未来の技術・情報等の進化と国際化への対応ができる人材育成と設備を整えてまいります。これまでに培った技術と経験でこれからも皆様の生活の中に安全と安心をご提供できるように社員一同邁進してまいります。

今後共、未永くご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



本社所在地：〒 465-0004 愛知県名古屋市中東区香南 2 丁目 912 番地
TEL：052-772-9855
URL：http://www.global-inspection.com
E-mail：sales@global-inspection.com
事業所：本社
認定種別：C 種
認定検査部門：UT、PT
主な検査分野：建築・土木・プラント・機械・航空

第 242D-10 号

有限会社優検

当社は、1992 年創業以来、人や環境に優しい未来志向の検査技術で「社会の安心と安全を守る一員」として努力を重ねて参りました。

2007 年には、検査会社の業務遂行能力の適格性・信頼性等を審査し認定する制度「CIW 認定」を取得。

多くの皆様からご信頼をいただきながら、検査業務を遂行しております。



本社所在地：〒 270-1431 千葉県白井市根 74-73
TEL：047-402-6226
URL：<https://yuken-ltd.co.jp/>
E-mail：mail@yuken-ltd.co.jp

事業所：本社
認定種別：D 種
認定検査部門：UT
主な検査分野：建築鉄骨・鉄筋、耐震診断・調査事業

第 206D-10 号

有限会社三重非破壊検査

弊社は、1992 年に設立し、建築鉄骨溶接部の超音波探傷試験を主体として各種非破壊検査業務および既存鉄骨の調査、コンクリート構造物の内部探査等の業務に携わっています。今後多様化するであろう、お客様からの御要望にも応えられるように技術・知識を習熟し、様々な課題に挑戦する意欲忘れずに取り組んでまいります。

同時に従業員とその家族の健康は会社の一環とし、働きがいのある職場環境を推進しています。従業員一人一人が高いモチベーションと誇りをもって働けることで非破壊検査業界のますますの発展に、また安全・安心な社会の実現に貢献してまいります。



本社所在地：〒 510-0252 三重県鈴鹿市五祝町 331-1
TEL：059-386-7450
E-mail：mhk@mecha.ne.jp
事業所：本社
認定種別：D 種
認定検査部門：UT
主な検査分野：鉄鋼製品、鉄鋼構造物、コンクリート構造物

第 191C-00 号

四国エックス線株式会社

弊社は昭和 56 年の創業以来、四国を中心に非破壊検査サービスを提供しております。非破壊検査サービスを通じて地域の方々の生活の安心・安全に貢献できるよう、「検査の品質」と「信頼」を高めるよう日々励んでおります。

低迷する日本経済と老朽化する社会インフラも問題となっており、維持・管理の観点からも非破壊検査の重要性は今後益々高まることが予想されます。加えて AI をはじめとする技術の進歩に伴い検査技術・装置も高度化・多様化されていくため、会社全体社員一人ひとりの成長が不可欠であると考えています。そのため、教育制度の拡充や新技術の導入にも積極的に取り組み、より一層信頼される企業を目指してまいります。



四国エックス線株式会社

(一社) 日本非破壊協会 (CIN) 認定 非破壊検査事業者

会社案内
Company Brochure



本社所在地：〒 763-0093 香川県丸亀市郡家町 3355
TEL：0877-22-8032
URL：https://www.shikoku-x-ray.com/
E-mail：info@shikoku-x-ray.com
事業所：本社
認定種別：C 種
認定検査部門：RT、UT
主な検査分野：建築鉄骨、鉄鋼構造物、コンクリート構造物等

第 252B-25 号

株式会社スルガ検査

弊社は、現在のテクノロジー時代に対応しながら日々アップデートを重ね、時代に合ったワークスタイルを実行してまいりました。これまでに多くの方々に支えられ、過去 2 万件以上の多様な検査・調査実績を積み重ねてきたことは、私たちの誇りです。お客様のニーズに全力で応え続ける中で、スルガ検査もさらなる成長を遂げております。「変化」「未来」をテーマに掲げ、独自の社内心得のもと、社員一人ひとりが技術力と人間力を磨き、一人ももれなく未来を明るくすることを使命としています。非破壊検査業務を通じてこのミッションを貫き、プロとして安全・安心なモノづくりを支えることで、私たちが存在する限り、未来の社会を守ってまいります。



本社所在地：〒 410-0001 静岡県沼津市市高 322-39
TEL：055-927-3600
URL：https://www.suruga-k.jp/
E-mail：info@suruga-k.jp
事業所：本社・東京営業所
認定種別：B 種
認定検査部門：UT、RT、PT
主な検査分野：インフラ・建設・石油 / ガス / 化学プラント・航空 / 宇宙 / 防衛・自動車 / 鉄道・製造装置 / 部品加工素材・半導体・エネルギー・造船 / 海洋

第 245D-11 号

株式会社建材サービスセンター

当社も今期で 40 期を迎えます。同じ 40 周年というご縁を感じております。当社は創業からコンクリート現場試験を主として、鉄筋、鉄骨の受入検査業務へ事業展開し、SRC 構造物の品質検査をワンストップサービスで提供しております。検査会社では異色の体制ですが、ニッチなポジションでお客様のニーズにお応えできるよう常に必要とされる企業を目指しております。また、CPD、CPDS を提供するセミナー事業もコロナ過を境にリモート移行が進み、コンクリートと非破壊の 2 大看板で全国に展開しております。

今後とも陰の主役として、建築構造物の安心・安全を提供するため、間違いの無い試験・検査を提供して参ります。



本社所在地：〒173-0011 東京都板橋区双葉町 40-10
 TEL：03-3963-2011
 URL：https://www.kenzai-s.co.jp/
 E-mail：honsya@kenzai-s.co.jp
 事業所：本社・本社営業所・江戸川事業所
 認定種別：D 種
 認定検査部門：UT
 主な検査分野：建築構造物（コンクリート、鉄筋、鉄骨）、
 構造物調査

第 180D-21 号

北陸検査株式会社

私たちは、昭和 57 年創立以来、最新の技術と長年の経験を集結し、石油化学プラント、橋梁、建築鉄骨など様々な産業分野における品質と信頼性を支える非破壊検査サービスを提供しています。材料、部品、構造物の欠陥を早期に検出しリスクの軽減と生産性の向上を実現します。

どうすればお客様のニーズにお応えすることのできる検査となり得るか、またそのために必要とされるであろうクオリティの高さを維持していくためにはどうしたらよいか、私たちは日々追及し続けています。非破壊検査の精度、それが我々の誇り。

主な業務内容

放射線（X線）試験、超音波試験、磁粉試験、浸透試験、鉄筋探査、その他非破壊試験



本社所在地：〒930-2205 富山県富山市金山新東 8 3 番地の 4
 TEL：076-435-2250
 URL：https://hkk2250.com/
 E-mail：hkk@p1.coralnet.or.jp
 事業所：本社
 認定種別：D 種
 認定検査部門：UT
 主な検査分野：石油化学プラント、橋梁、建築鉄骨、及び各種鋼構造物

第 16B-89 号

株式会社大検

当社は1967年5月創業以来、非破壊検査サービスを通じて社会の安全性・信頼性確保の役割を果たしてきました。外部認証においては、1980年のCIW D種認定から始まり、現在はB種認定会社として日々非破壊検査技術の研鑽に努めています。そして、顧客の信頼と満足を目指す上でのサービス向上としてISO9000シリーズも取得しました。

当社の検査サービスは、RT、UT、MT、PTが主となっていますが、それ以外にも検査会社として数少ないLT(漏れ試験)も行なっています。その中でもヘリウムリーク試験を主体に、圧力容器や熱交換器、各種プラントの発電設備関連等からの依頼が増えてきており、漏れ箇所の特定や健全性の確認を有資格者(NDI3及び2保持者)が行なっています。

当社は、特に倫理教育に力を入れており、これからのコンプライアンスを遵守した検査サービスの提供を通じて、広く社会的責任を果たし、より一層社会貢献に努めて参ります。



本社所在地：〒570-0022 大阪府守口市暁町4-27

TEL：06-6991-7481

URL：https://www.daiken-ndt.co.jp

E-mail：info@daiken-ndt.co.jp

事業所：本社

認定種別：B種

認定検査部門：RT、UT、MT、PT

主な検査分野：RT、UT、MT、PT、LT、計測業務(外観、寸法測定検査等)、技術サービス業務(ASME規格に基づく非破壊検査管理業務)

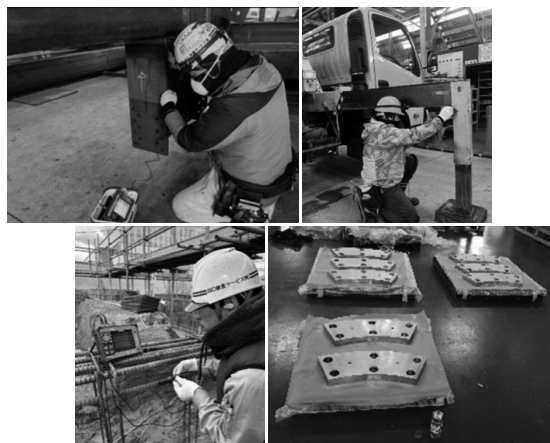
第 160D-02 号

アイ・エス・シー検査サービス株式会社

弊社は、1985年に設立し、非破壊検査技術としては超音波を用いた試験・検査を主体とし、建築・土木分野において検査や品質管理等を行い、構造物等の品質確保に寄与し、社会の安全に貢献しております。お客さまを第一に考え、日々自己研鑽に努め、誠実に情熱をもってプロフェッショナルな仕事の提供を目指しております。昨今は、人手不足やあらゆるものの物価高により対応が大きな課題となっておりますが、より一層自己研鑽に努め、来るべき次世代に向かって地域、社会の安心・安全を支え続けてまいります。

活動範囲：北陸・中部

主な業務内容：建築鉄骨溶接部・鉄筋ガス圧接部の検査、溶接指導、鋼材・鍛鋼品の検査、コンクリート内部鉄筋探査、揮発性有機化合物室内濃度測定



本社所在地：〒931-8324 富山県富山市豊城町5-10

TEL：076-438-0507

E-mail：isc@elf.ocn.ne.jp

事業所：本社

認定種別：D種

認定検査部門：UT

主な検査分野：建築・土木における鋼構造物、コンクリート構造物

第 253C-23 号

関門検査サービス株式会社

2018年の会社設立から今年で8年目。私たちは「県内ナンバーワン」の志を胸に、非破壊検査の最前線を走り続けてきました。CIW-C種認定への昇格は私たちが積み上げてきた信頼の証です。フェーズドアレイ UT による高度な溶接部検査や精密診断、タンク底部の連続板厚測定装置による効率的な調査。さらに表面検査の高速化が期待できる渦電流検査も見据え、常に技術のアップデートを欠かしません。少数精鋭ならではの機動力と検査技術者一人ひとりの「目」と「心」で社会のインフラを支えます。10周年へ向けて、私たちは「選ばれ続ける技術集団（スペシャリスト）」として進化を止めません。



本社所在地：〒751-0993 山口県下関市長府豊城町 11-30
 TEL：083-242-1746
 URL：http://kanmon-kensa.com
 E-mail：info@kanmon-kensa.com
 事業所：本社
 認定種別：C種
 認定検査部門：UT、RT
 主な検査分野：非破壊検査全般、電力・石油プラントの保守検査、
 危険物タンクの建設時検査及び開放検査
 鉄構造物、建築鉄骨の溶接部検査

第 161D-08 号

株式会社ジャパンエコーサービス

「顔が見える鉄骨検査」

株式会社ジャパンエコーサービスは1994年創業以来、お客様からの信頼と社員の幸福を理念に掲げて経営してきました。

私どもは、優れた検査技術は当然ながら「お客様とのコミュニケーション」も大切な要素と捉え検査を行っております。

茨城県を中心に関東圏内で業務を行っており、主な検査内容は、鉄骨溶接部の検査・鉄筋継手部の検査・配筋探査等になります。

社会インフラの老朽化が問題となっており、検査業務の対象や範囲も広がって多様な検査が増えており非破壊検査の需要が高まっていることを実感します。

この高度化していく技術と社会に応えるべく、

「公平性・技術力・人間性」をモットーに一層精進して参ります。



本社所在地：〒311-4153 茨城県水戸市河和田町 895-1
 TEL：029-252-9846
 URL：https://www.japanechoservice.com/
 E-mail：jes@fine.ocn.ne.jp
 事業所：本社
 認定種別：D種
 認定検査部門：UT
 主な検査分野：鉄骨溶接部・鉄筋継手部・橋梁土木

第 113C-10 号

株式会社サンテクノス

弊社は、日々変化する多様なニーズに柔軟な発想と豊かな経験を生かした高度な技術で応えていると同時に、お客様への最高の満足を追求し、信頼ある検査・調査に努めています。

社会への信頼を支える「技術」を確立するために、検査・調査に関する資格取得はもちろん、その為のより良い環境を整備し、さらに現場での経験豊かな技術者を育成することによって社会貢献度の高い企業創りに取り組んでいます。

品質マネジメントシステムの継続的改善をはじめ、信頼ある企業を創っていく為のたゆまぬ努力、安心と安全をプロデュースする為の技術力の向上を念頭に社会的貢献を目指しています。



本社所在地：〒690-0048 島根県松江市西塚島1丁目2番9号
 TEL：0852-22-4478
 URL：https://sut.co.jp/
 E-mail：info@sut.co.jp
 事業所：本社・関東事業所・広島事業所・鳥取営業所
 認定種別：C種
 認定検査部門：UT、PT
 主な検査分野：建築鉄骨鉄筋構造物、インフラ構造物
 プラント機器他

第 221D-13 号

有限会社佐賀検査サービス

当社は、佐賀の品質水準の一層の向上に貢献することを目的として、創業者の強い意志のもと、1992年に創業いたしました。

建築構造物の非破壊検査を主業務とし、鉄筋継手部および鉄骨溶接部の検査を中心に、数多くの現場で実績を積み重ね、建築の安全を支え続けてきました。

現在は代表・溝口亮太を中心に、20代・30代の若手技術者が現場の最前線で活躍し、確かな技術と柔軟な発想を融合させ、正確かつ迅速な検査を実現しています。また、現場ごとの条件に応じた対応力と、スピード感ある報告体制を強めています。

今後は、多様なニーズに対応できる体制をさらに強化するため、幅広い現場で活躍できる技術者

の育成や他社との連携を通じて、品質と信頼性のさらなる向上に取り組んでまいります。

かつて幕末の佐賀藩が日本の近代化を支えたように、その精神を受け継ぎ、佐賀の技術力向上の一端を担う存在として、進化し続けてまいります。



本社所在地：〒849-0503 佐賀県杵島郡江北町大字惣領分 3971 番地 2
 TEL：0952-20-6636
 URL：https://www.sagakensa.co.jp/
 E-mail：root@sagakensa.co.jp
 事業所：本社
 認定種別：D種
 認定検査部門：UT
 主な検査分野：建築鉄骨、鉄筋等

第 189C-19 号

内外エンジニアリング株式会社

内外エンジニアリング株式会社は（昭和 55 年）11 月創業以来、非破壊検査技術を通じて鋼構造物の非破壊検査やコンクリート構造物のインフラ調査に携わってまいりました。

現在では多種多様な検査・調査依頼に対応すべくパイオニア集団であり続けるよう心がけ、企業としては地球環境の保全と豊かで住みやすい会社作りに貢献する確かな技術力、豊富な実績を基盤とし、品質の向上をめざしています。



本社所在地：〒 536-0023 大阪府大阪市城東区東中浜 2-13-18
 TEL：06-6180-3526
 URL：http://naigai-ciw.co.jp/
 E-mail：info@naigai-ciw.co.jp
 事業所：本社
 認定種別：C 種
 認定検査部門：UT、PT
 主な検査分野：建築鉄骨、橋梁、コンクリート構造物

第 25A-88 号

株式会社ジャスト

「困ったらジャストへ！」

弊社は、「非破壊検査技術×建築/土木技術×最新テクノロジー」を通じて顧客のあらゆる課題を解決するため、業務を広げてきました。

新築時の超音波探傷検査（UT）をはじめとする各種非破壊検査、配筋検査や墨出し（デジコア）、既存建物の調査・診断、コンクリート内・地中埋設物探査、コア削孔、インフラの点検、環境分析など、その領域は多岐にわたります。

さらに現在は、長年培った高度な調査技術に最新の AI 技術を融合。ドローンや 3D 計測、AI 画像診断、自社開発の橋梁点検調書支援アプリ「タテログ」、下水管渠調査支援アプリ「スマカン」などを積極的に活用し、精度・スピード・再現性の飛躍的向上を実現しています。

これからも、業界のリーディングカンパニーとして、技術革新を続け、あらゆる構造物を安心・安全に利用できる世界をつくるために貢献します。



他にない
 「構造物の総合病院」
 「他にない」
 = 競合他社にできない
 「他にない」
 = 新たな挑戦を続ける
 「構造物の総合病院」
 検査・調査会社の域を超えた多様な悩みに精通するビルディングドクターが構造物の安心・安全を支えます。

本社所在地：〒 225-0012 神奈川県横浜市青葉区あざみ南二丁目 4 番 1 号
 TEL：045-911-5191
 URL：https://www.Just-itd.co.jp
 E-mail：yokoyama@just-itd.co.jp
 事業所：本社・名古屋事業所・大阪事業所・仙台営業所・新潟営業所・千葉営業所・長野営業所・山口営業所・群馬営業所・福岡営業所
 認定種別：A 種
 認定検査部門：RT、UT、MT、PT、ET、ST
 主な検査分野：建築

第 34C-90 号

株式会社コーケン

弊社は昭和 40 年 3 月創業以来の豊富な経験、技術そして「非破壊検査を通じて社会資本の安全・安心に貢献する」という 会社理念のもと質の高い非破壊検査サービスを提供します。

船舶、橋梁等鋼構造物の非破壊検査及び建築鉄骨・鉄筋の非破壊検査をはじめとして、各種プラントの保守検査、コンクリート内部鉄筋探査、溶接施工管理等さまざまな分野において顧客の要望にお応えします。

「安全に」、「安心」、「正確に」をモットーに倫理教育の徹底と企業コンプライアンス遵守による一層の顧客満足度向上に努めて参ります。

【認証 / 登録】

ISO (国際標準化機構) 9001:2025



本社所在地：〒 555-0021 大阪市西淀川区歌島 1-24-22
 TEL：06-6472-3561
 URL：https://www.kohken-ndt.co.jp
 E-mail：honsha03@kohken-ndt.co.jp
 事業所：本社・神戸・坂出
 認定種別：C種
 認定検査部門：RT、UT
 主な検査分野：船舶、建築鉄骨・鉄筋、橋梁、プラント
 コンクリート構造物

第 89D-92 号

富士検査株式会社

弊社は 2005 年より非破壊検査事業を発足し主に建築鉄骨及び鉄筋の検査を主体とした非破壊検査業務を実施しております。発足から今日に至るまで、信頼される検査会社となるべく、「研究、努力、研鑽」を進めてまいりました。

その結果各方面から高い技術評価をいただいております。

今後も一層の精進を重ね、技術力を強化し、建築鉄骨や鉄筋の検査精度を高めることによって構造物の安全性と品質を確保し、正確かつ確実な検査を行うことにより「安全・安心な社会」の実現に貢献していきたいと考えております。

これからも弊社は「安心して任せられる検査会社」を目指してまいりますので、今後ともご指導お引き立てのほど、よろしくお願ひ申し上げます。



本社所在地：〒 340-0003 埼玉県草加市稲荷 1-1-1
 TEL：048-927-1931
 E-mail：takahashi@fujikensa.jp
 事業所：本社
 認定種別：D種
 認定検査部門：UT
 主な検査分野：建築鉄骨・鉄筋等

第 3D-19 号

エース・エンジニアリング株式会社

当社は 1975 年の設立以来、一貫して「社会インフラの安全と品質を守る」ことを使命に非破壊検査の専門企業として歩んでまいりました。

当社の強みは、創業から積み重ねてきた【豊富な現場経験】と、日々研鑽を重ねることで磨かれた【高度な専門性】です。

近年は社会ニーズの変化が激しくなっており、より高い安全性と効率性を実現すべく、お客様の課題に寄り添い、進化を続けています。

今後も、社会インフラの安全を支えるパートナーとして産業の発展に貢献してまいります。



本社所在地：〒 551-0021 大阪市大正区南恩加島二丁目 8 番 11 号
 TEL：06-6552-8631
 URL：http://www.ace-engineering.co.jp
 E-mail：Info_os@ace-engineering.co.jp
 事業所：東京支社・〒 284-0027 千葉県四街道市栗山 1083 番地 6

認定種別：D 種
 認定検査部門：超音波検査
 主な検査分野：建築鉄骨および橋梁等の鋼構造物

第 86C-93 号

ユニセック株式会社

弊社は、昭和 55 年 8 月の創業以来、石油化学プラントや電力、建築関係等の検査業務を行ってきました。

社会の安全を守り、諸産業を支えるために、高度な技術と専門知識を活かし様々な業界に向けて最適な検査ソリューションを提供し社会的に貢献することに情熱を傾けています。

非破壊検査認定技術者として、時代のニーズに即応できる豊富な経験と機材を駆使し機動力のある検査会社を目指し、より一層信頼されるよう努めて参ります。



本社所在地：〒 230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 4-14-9
 TEL：045-503-3511
 URL：https://www.unisek.co.jp/
 E-mail：usc_gijutu@unisek.co.jp
 事業所：本社・機材センター・横浜事務所

認定種別：C 種
 認定検査部門：RT、UT
 主な検査分野：建築・鉄筋鉄骨・石油プラント・タンク開放検査・電力・コンクリート構造物

2026年度 IWIP 国際溶接検査技術者 特認コース募集要項

1. 応募方法（申請に必要な書類の準備/提出）

応募者は以下の<応募申請書類>を JWES+HP よりダウンロードして準備し、J-ANB 事務局へ上記期間内に提出してください。なお、応募者が少なく、試験実施が困難な場合は、次来年度以降に延期される可能性があることを、予めご承知おきください。

★受験応募受付期間：2026年4月1日(水)～6月30日(火) 事務局必着

<事務局> (一社)日本溶接協会 事業部 J-ANB 事務局(立花) E-mail : tomoyuki_tachibana@jwes.or.jp
TEL : 03-5823-6325 FAX : 03-5823-5211

非破壊検査資格については、JSNDI(日本非破壊検査協会) <https://www.jsndi.jp/qualification/> ^
 <応募申請書類> 応募者は以下の①,②,③の書類を記入し④の資格の写しと併せ、ご提出下さい。

- ① 「受験申請書」
- ② 表1の学歴を満たす「学歴記入表」「卒業証書(学位記)の写し」又は「卒業証明書」
- ③ 表1の職務経歴を満たす「職務経歴証明書」
- ④ 表1の資格を満たす溶接資格のデイトラ又は適格性証明書及び非破壊検査資格(JSNDI)の写し

表-1. 資格の種類に対応する受験条件(学歴, 職務経歴, 必須保有資格)

受験資格レベル	受験条件			
	学歴	職務経歴	溶接資格	非破壊検査資格(JSNDI)
IWI-C	工科大学及び工科大短大(修業2年以上), 又は工業専門学校(修業2年以上)の卒業生。	直近4年間で, IWI-C相当の業務経歴が3年以上あること。	IWT or IWE or WES 特別級	最少(限) レベル2又はレベル3の2資格保持者(但し1資格は体積検査, 1資格は表面検査, かついずれか1資格はレベル3のこと)
IWI-S	工科大高等学校, 又は工業系高等学校, 又は職業訓練高校, 又は溶接工科大学(修業3年以上)の卒業生で, 年齢は20歳以上の者, 又は上記以外高等学校の卒業生で, 年齢は20歳以上, 溶接の実務経歴5年以上を有する者。	直近3年間で, IWI-S相当の業務経歴が2年以上あること。	IWS or IWT or IWE or WES1 級以上	最少(限) レベル2の2資格保持者(但し1資格は体積検査, 1資格は表面検査)
IWI-B	直近2年間で, IWI-B相当の業務経歴があること。	直近2年間で, IWI-B相当の業務経歴があること。	IWP or IWS or IWT or IWE or WES2 級以上	最少(限) レベル1の2資格保持者(但し1資格は体積検査, 1資格は表面検査)

2. 補講講座の受講：7月の週末2～3日間@場所：日本溶接技術センター(川崎市)

全ての応募者(受験者)は、上記受験条件を満たした後、本特認コースに必要なIIV履修ポイントを取得する必要があります。このため、以下の補講講座を受講しなければなりません。

- (1) 外観検査(VT)の補講講座(全員必須)
- (2) WPS, WPQR, 曲げ試験他への補講講座(全員必須)
- (3) NDI 資格の補講講座：UT及びPT資格保有者の場合、RT及びMTの補講の受講が必須です。

表-2. IIV履修ポイント取得のための補講講座(科目, 内容, 対象者)

実施月日	受講対象者	補講科目	講座の内容
*7/3(金)～4(土)	全員が必須	VT(外観, 破面, マクロ検査)	2日間で, 実技試験に出る「外観, 破面, マクロ試験」の検査実習と, 必要なISO規格とを学習する。
*7/23(木)～24(金)AM	*RT 資格非保持者は必須, 及び, 希望者	*RT 理論と実技	1.5日間で, 理論/実技試験に出る「RT 検査報告書」, 「RT 画像」の判定実務と, 必要なISO規格とを学習する。
*7/24(金)PM～25(土)	*UT 資格非保持者は必須, 及び, 希望者	*UT 理論と実技	1.5日間で, 理論/実技試験に出る「UT 検査報告書」の判定実務と, 必要なISO規格とを学習する。
*7/30(木)～31(金)AM	*PT 資格非保持者は必須, 及び, 希望者	*PT 理論と実技	1.5日間で, 理論/実技試験に出る「PT 検査報告書」の判定実務と, 必要なISO規格とを学習する。
*7/31(金)PM～8/1(土)	*MT 資格非保持者は必須, 及び, 希望者	*MT 理論と実技	1.5日間で, 理論/実技試験に出る「MT 検査報告書」の判定実務と, 必要なISO規格とを学習する。
9/5(土)	全員が必須	理論/実技試験への対策講座	1日間で, 上記科目以外の理論/実技試験への対策講座としてISO規格や曲げ試験報告書, WPS, WPQR等を学習する。

*補講科目の順番は、講師のご都合により、入れ替える可能性があります。

3. J-ANB による書類審査とテクニカルインタビュー(TI)

- 1) 受験者から提出された関係書類の妥当性、客観性などについて評価します。
- 2) 応募者数に応じて、テクニカルインタビュー(面接)日時を決め連絡します。: 8/20～9/5の間で約1～2時間/1名@場所：日本溶接協会にて。テクニカルインタビューでは、溶接技術/検査技術の知識修得/実務経歴のレベルについての面接審査を行い、次のプロジェクトワークをスキップして良いか否かを判断致します。

4. プロジェクトワーク (Project Work : PW)

TIにおいて、実務経験が不十分と判断された方は、プロジェクトワークに進みます。これは、知識の応用力、問題解決能力を調べるため、指定されたテーマに対して各自が予習し、数名のチーム編成によるケーススタディを行い、予習報告書、最終報告書及び発表内容が審査・評価されるものです。

- ① 予習報告書の作成：予習期間は2026年9月18日～10月16日の約4週間
J-ANBより配布されたプロジェクトワーク案内に基づいて予習を行い、その結果を予習報告書としてケーススタディの前にJ-ANBへ提出します。
- ② ケーススタディ (集合研修形式) 日程：2026/10/22(木), 23(金), 24日(土)の3日間
場所：大阪大学接合科学研究所(茨木市), 3日間で簡単な報告書作成と発表審査とを行います。
- ③ 最終報告書
ケーススタディ終了後、2週間以内に最終報告書をJ-ANB事務局へ提出する必要があります。

5. 最終試験

最終試験は、理論試験と実技試験とを行います。

- ① 理論試験 (溶接技術(WT)モジュール及び溶接検査(WI)モジュールで構成される)
・日程：2026年11月27日(金)PM及び28日(土) ・場所：日本溶接協会(千代田区)
・試験時間：WT/WI-C：2.5時間, WT/WI-S：2.5時間, WT/WI-B：3.5時間,
注)WI-Cの受験者は上記の3試験(WT&WI-C/S/B)を, WI-Sの受験者は上記の2試験(WT&WI-S/B)を,
WI-Bの受験者は上記の1試験(WT&WI-B)を受験する。
- ② 実技試験 (パートA, B及びCで構成される)
・日程：2026年12月5日(土) ・場所：日本溶接技術センター(川崎市)
・試験時間：PE-S：4時間, PE-B：2.7時間,
注)WI-C及びWI-Sの受験者は上記の1試験(PE-S)を, WI-Bの受験者は上記1の試験(PE-B)を受験する。

6. 合否通知, 登録及び履修証明書(デイブ)発行

- ・合否通知：2027年1月初旬 ⇒ ・登録期間：2027年2月初旬迄
- ・履修証明書(デイブ)：2027年2月中旬以降発行予定

7. 受験料, 登録料及び総額(いずれも消費税10%込み)

- ① 受験料：186,000円/申請時に納入：書類審査/必須の補講講座/ TI /理論試験/実技試験の費用計
- ② 補講講座の追加費用：28,000円/1講座あたり
- ③ プロジェクトワークの追加費用：75,900円
- ④ 登録料：24,640円/合格後に納入：登録及び証明書(デイブ), 携帯用の証明書(プラスチックカード)発行料

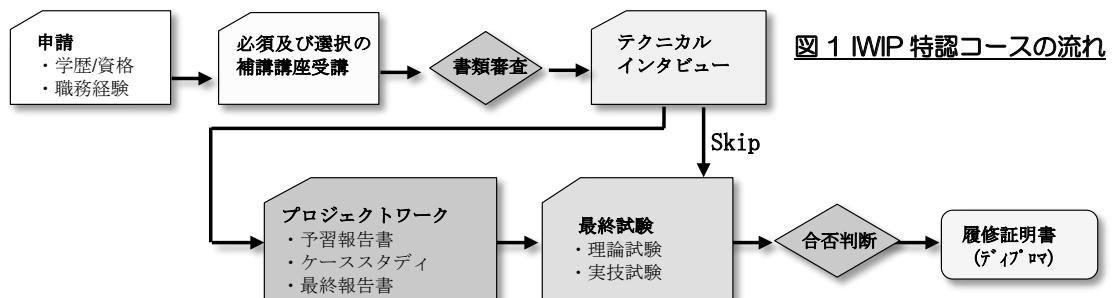
表 3. 総額	補講講座 2 科目	補講講座 1 科目	VT 他必須講座のみ
プロジェクトワーク受講無し	266,640	238,640	210,640
プロジェクトワーク受講有り	343,540	314,540	286,540

8. 再受験*

※当該年度で特定のモジュール/パートが不合格の場合、IIV-IABの認証規則に従い6年以内の再受験が認められます。J-ANBでは、次年度の試験(当該モジュール/パート)での再受験を推奨しています。詳細は、J-ANB事務局へお問合せ下さい。

9. 提訴**

**認証の決定に異議を申し立てる者は、決定通知の日より60日以内に、J-ANB資格認証委員会に書類を付して提訴することが出来ます。詳細は、J-ANB事務局へお問合せ下さい。



5. CIW 検査業協会だより (Vol.40 No.1) – 2026.4

事業計画に沿って順調に実施しています。その一部を紹介いたします。

☆理事会・委員会活動について

- ◆第105回技術委員会が1月21日(水)に開催され、建築鉄骨溶接部及び鉄筋継手部に関連する諸々の知識及び第三者検査に伴う実際の適用例・不具合等配布検討資料等について話し合われました。
- ◆第8期(2026・2027年度)役員選挙が実施され、2月5日に公示されました。
- ◆第3回契約適正化実行委員会が2月12日(木)開催され、建築鉄骨第三者検査PRなどについて話し合われました。
- ◆第2回次世代のための非破壊検査セミナー委員会が2月16日(月)開催され、運営事業報告、運営事業計画について話し合われました。

☆講習会について

- ◆東京都知事が認定する研修会【建築物の工事における試験及び検査に関する研修会(鉄骨溶接部に係る)】の実技研修が東京1月18(日)に開催されました。
- ◆WES 8701:2018「溶接構造物非破壊検査事業者等の認定基準」に基づく『内部監査員養成のための研修会』を2026年2月7日(土)に東京で開催されました。
- ◆東京都知事が認定する研修会【建築物の工事における試験及び検査に関する研修会(鉄骨溶接部に係る)】の実技研修が東京2月15(日)に大阪で開催されました。

☆今後の講習会・研修会等の予定について

- ◆NDI ーレベル3試験対策講習会
2次対策講習会(UT 3、RT 3、PT 3)を2026年4月25日(土)26日(日)に計画しております。

- ◆2026年度の各種講習会の開催案内は、詳細が決定次第、会員様当てメール及びホームページにてご案内いたします。

*「研修会・講習会」の詳細・お問い合わせ等は、CIW 検査業協会事務局(03-5820-3353)まで。
また、当協会ホームページ(<https://www.ciw.gr.jp>)にも掲載しております。

6. CIW 認定に関するお知らせ

2026年4月1日付で認定されたCIW認定事業者のうち、ここでは2025年10月1日付認定から変更のあった事業者についてご紹介します。〔 〕内の数字は、会社コードです。

なお、認定事業者（全て）については、別刷「CIW認定事業者一覧」をご覧ください。

<認定停止：1社>

- 日本インスペックス（株）〔44〕
認定検査部門：UT

<部門追加・削除：1社>

- （有）グローバル検査〔188〕
部門追加：PT 部門を追加
部門削除：RT 部門を削除
認定検査部門：UT・PT・建築鉄骨検査適格事業者
登録事業所：本社

以上

参考< 認定事業者数の推移 >

種 別	2026年4月1日付認定← 2025年10月1日付認定	
A 種	16社	← 16社
B 種	11社	← 11社
C 種	27社	← 27社
D 種	56社	← 57社
合 計	110社	← 111社

編集後記

木々の芽吹きが春の訪れを告げる季節となりました。本稿を執筆している今、スポーツ界ではWBCが熱狂の渦にあります。侍ジャパンが最終決戦の地アメリカへと渡り世界の頂点を目指して雌雄を決しようとする姿には、閉塞感のある日常を打ち破るような勇気をもらいます。

しかし、その華やかさの裏側で世界情勢は緊迫の一途をたどっています。特にイランを巡る情勢の激化はエネルギー供給の不安定化を招き、資材価格や物流コストの高騰という形で、我々非破壊検査業界の足元をも大きく揺さぶっています。日々のニュースで、ミサイル攻撃によってプラントや橋梁が無残に破壊される映像を見るたび、検査技術によって守るべきはずの構造物が一瞬で失われる不条理に、胸を締め付けられる思いがいたします。

改めて痛感するのは、平和という盤石な土台があってこそ、我々の掲げる「安全」が成立するということです。しかし同時に、こうした不透明な時代だからこそ、インフラを守り抜く我々の職責はより重みを増しています。限られた資源を、いかに長く、安全に使い続けるか。構造物の「健康寿命」を判定する非破壊検査は、社会のレジリエンスを支える最後の砦と言っても過言ではありません。

この春、大きな志を持ってこの業界に飛び込んでくれた新社員の皆さん、心から歓迎いたします。最初は、超音波探傷の波形の意味も、放射線透過写真に映る微細な影の正体も分からず、戸惑うこともあるでしょう。ですが皆さんが見つける一つひとつのきずが、数十年後の社会の「安心・安全」を守るのだという事実、どうか誇りを持ってください。新人の皆さんの瑞々しい感性と、ベテランの円熟した技術が融合し、この難局を乗り越える新たな知見が生まれることを切に願っています。

(T.M)

CIW通信 VOL.40 No.2 (Spring 2026)
発行日 2026年4月20日
編集・発行所 一般社団法人 日本溶接協会
溶接検査認定委員会

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 4-20
TEL 03-5823-6325 FAX 03-5823-5211
<http://www.jwes.or.jp/>
